

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和7年3月17日(月)
(2025年)

地域企業紹介 92

尾崎ギヤー工業株式会社
代表取締役 尾崎 一郎

品質を追求し、時代をつなぐモノづくりに挑戦

産業機械や医療機器、半導体製造装置などに搭載される歯車(ギヤー)の製作を行う尾崎ギヤー工業株式会社の尾崎一郎社長を、相模原市中央区宮下の本社工場に訪ねました。

普段の生活ではあまり目にすることがない歯車。モーターやエンジンといった動力源から機械の各部分に動力を伝え、身近なものではアナログ時計や自動車、工場などの生産設備の中でその役割を果たしている。周囲に歯形を付けた円形の物体であり、古代中国の軍事品に用いられ、年代は紀元前2700年まで遡るとも言われている。古代ギリシアの紀元前350年頃のものとしてされる書物では青銅製や鉄製の歯車に関する記述もあり、文明の発生から現在に至るまでのほとんどの間、人類は歯車を利用してきたことになる。その種類は多種多様で、歯すじ(歯車の噛み合う歯部分の歯幅方向の形状)の種類によって大きく分類され、<回転方向や軸方向を変える>、<減速・増速する>、<動力の分割を行う>、<回転速度や回転力を変換する>など、用途も多い。この世に存在しなければ、人類の今の生活はもはや成り立たない歯車。尾崎ギヤー工業社は中・大型の歯車を製作し、人々の生活を支えているのだ。

1948年、東京都江東区深川毛利町で尾崎松太郎氏(現代表取締役一郎氏の祖父)が創業、翌年に法人化し、尾崎ギヤー工業株式会社となって創業場所の近隣に本社を移転した。現橋本工場は1969年に新設した事業所であり、その後、茨城県にも工場を構えた。1982年、橋本工場の増築により茨城工場は集約されることとなる。2006年、江東区亀戸にあった本社を現本社工場(相模原市中央区宮下)に移転し、相模原市内に2拠点を構える現在の体制となった。多品種少量生産型で、1個のオーダーにも対応。直径が2mを超える大型の歯車であっても、切削の工程では歯すじや固定用の穴の内径に10 μ m(100分の1ミリ)での精度が、歯面の研削工程では1 μ m(1000分の1ミリ)レベルの研磨仕上げが必要となる。形状や位置関係などの誤差の許容範囲である“幾何公差”も重要で、歯車と接する他の部品等をスムーズに稼働させるため、精緻な技術力が求められる。工場内には目線を上げなければ全容が認識できないような大型の加工機械が並ぶ中で、管理図などによって μ m単位の品質データが記されている。同社は独自の品質マニュアルを構築・運用し、3年ごとに改定。ISO 9001の認証取得はなく、それでも月単位で大手企業を含む約50社に納入している実績は、同社が追求し続けているモノづくりに対する研ぎ澄まされた感覚と執念の結実と言える。生産管理システムも独自に構築し、製造指示、進捗・製造履歴の管理、さらには受注から請求書の発行までを統合する徹底ぶりだ。2002年には相模原市優良事業所として、2024年には神奈川県優良工場(本社工場)として受賞。

代表取締役：尾崎 一郎 (おざき いちろう)
所在地：相模原市中央区宮下 3-11-22
従業員数：29名
事業内容：各種高精度歯車製作、大型部品機械加工、
乾式クラッチブレーキ製作・販売
URL：<http://www.ozaki-gear.co.jp>

国際プロジェクトであるITER(イーター;核融合エネルギーの実現可能性を検証するための科学実験プロジェクト)に参画する大手重電工業メーカーの品質監査に合格し、2008年の第一次試作、2024年の第二次試作でも関連案件を受注した。

尾崎社長の実家は東京都調布市にあった。幼い頃は戦闘機などのプラモデルが好きで、絵を描くことも得意だった。また、釣りや魚の飼育にも熱心だったこともあり、日大三高を卒業後は東海大学 海洋学部水産学科に進学した。在学中はサイパン、ポナペ、オーストラリアなどを調査船で出向き、実習を行ったこともある。体育会の準硬式野球部にも所属した。幼少の頃から得意だったスポーツ。中・高ではサッカー部に所属、大学の野球部・寮生活では厳しい上下関係の中で思いやりや絆の大切さを、身をもって学んだ。大学を卒業し、就職したのはペット産業の総合問屋で、営業職に就いた。当時、ペット産業は右肩上がりの成長基調にあり、その激務を何とか体力でしのいだと尾崎社長は振り返る。やがて父上(二代目代表取締役尾崎富士夫氏)から「そろそろ、どうだ」声が掛かり、1989年、尾崎ギヤー工業に入社。各現場で学び、営業も担当した。μm単位の精度が“しっとり感”となって体に取り込まれ、モノづくりの現場にどっぷりと浸かった。入社から30年経過した2019年に、叔父である尾崎昌男氏(三代目)から

代表取締役を継承し、現在に至る。趣味はゴルフ、溪流釣りで、かつては家族で出掛けていたアウトドアは、今やお孫さんも一緒に三世代で楽しんでいる。溪流釣りにもお供をしてくれるのは愛犬(柴犬)で、アレルギーを持っていることから保護犬となっていたのだそうだ。ペット業界では病気や売れ残りで殺処分されるペットたちがいる裏の現実を、いつしか当たり前に受け止めてしまっていたことへの悔恨が重なったのかもしれない。お互いに年を重ね、溪流の急峻な行程が少し辛くなってきたと、尾崎社長は目を細める。

海外にも販路を有していることで、昨今の世界情勢は受注や生産に大きく影響する。特に米国の新政権発足により、モノづくり企業として、また企業としての力そのものを問われる厳しい状況も想定される中、一点一点に品質という魂を込めて製作した歯車は、強靱かつ精密なつくりで動力をつないでいる。今後の経営ビジョンとして第一に掲げるのは「環境変化に適応できる技術力・人材力の確保・維持継承」。尾崎ギヤー工業は技術をつなぎ、価値をつなぐことで着実な進化を遂げてきた。そして、自らが行き先を照らし、新たな1ページを刻むことで、これまでの長い歴史とこれからの未来を、今まさにつなぐようとしている。

FA のプロフェッショナルとして 製造業を包括的にサポート!

入居企業紹介

96

インテグリアル株式会社

FA (ファクトリーオートメーション) 機器の構想設計・製作や FA 企業向けコンサルティング、ロボット関連製品の販売などを手掛けるインテグリアル株式会社の永田記章社長にお話を伺いました。

これまでの経歴や創業の経緯

大学でマーケティングを学んだ永田社長。卒業後は搬送機器メーカーで機械オペレーターや営業を経験。その後、技術商社に転職し、製菓業界向けの製剤機械など、大規模案件のプロジェクトマネージャーとして活躍しました。直近は、世界的ロボットメーカーの Sler 事業担当として、主に三品業界 (医薬品・化粧品・食品) 向けロボットシステムの構想設計などに携わっていました。

そして、令和 5 年 1 月、製造業の包括的なサポートを行うインテグリアル株式会社を設立し独立を果たします。SIC には、創業と同時に Desk10 に入会しました。

コンサルティングの内容

FA 企業向けコンサルティングでは、上場企業から町工場まで、複数のクライアントを抱えています。商品開発や販路開拓、輸出ビジネスの立ち上げ、経営戦略の策定など、支援内容は多岐にわたります。

「話を聞いていくと、企業が認識している課題が問題の根幹ではないことがある。コンサルティ

ングを通して、課題の優先順位をつけ、アクションを起こす手助けになれば」と語ります。

昨年11月には、相模原市主催「ロボット Sler スキルアップ講座」に登壇し、『対話で案件が具体化する』と題して講演を行いました。「技術」だけでなく、「経営」や「営業」の視点からもコンサルティングできる永田社長のもとには、日々さまざまな相談が舞い込んできます。

ロボットシステムの設計・製作・販売

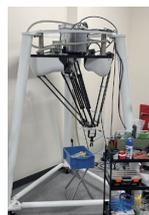
元々コンサルや経験に基づくロボットシステムの構想設計でスタートした同社は、この一年で、ロボットシステムや自動機の製作までを依頼されることが増えました。受注額も売上も増加する一方で、装置に対する仕上がり、技術的なリスクをすべて引き受けなければならないだけでなく、資金繰りや調達などの財務戦略にも気を遣う必要が出てきました。そんな中、「SIC への相談がきっかけで融資に繋がるなど、手厚い創業支援を受けました」と話してくれました。

新たな取り組み

新たな取り組みとして、オランダのパラレルリンクロボットメーカー Codian Robotics の国内販売を開始しました。このロボットにはサーボモーターが搭載されておらず、メカ機構のみが提供されている点に特長があります。

そのため、ユーザーが自社に合ったモーターや制御機器メーカーを選定できるといった多くの利点があるそうです。

現在は、相模原市の中小企業研究開発補助金で採択された「AI 3次元画像処理システム・パラレルリンクロボット連携インターフェース開発」事業で、相模原のロボットメーカーと協力しながら開発を進めています。



社名の由来と経営ビジョン

「インテグリアル」は、積分を表す『Integral』と産業を意味する『Industrial』を組み合わせた造語です。この社名には、積分が曲線の傾きから面積を導き出す手法であることになぞらえ、顧客のビジネスが広がるといったイメージが込められています。

インテグリアルでは、“製造業のエコシステムの駆動源になる”をビジョンに掲げ、製造業の経営全般を俯瞰した支援により一層力を注いでいきます。

INTEGRAL

インテグリアル株式会社
Desk10
<https://integral.jp/main/>
E-Mail noriaki.nagata@integral.jp

今回は一般社団法人JBIA(日本ビジネス・インキュベーション協会、以下JBIA)の星野会長に、ビジネス・インキュベーションの起源、産業界における役割やこれまでの変遷についてご寄稿頂きました。

世界でビジネス・インキュベーション(BI)と呼ばれる概念が生まれたのは、1959年米国NY州の片田舎で始まったBatavia Industrial Centerの活動と言われ、それが四半世紀遅れてわが国に導入され、かれこれ40年が経過します。わが国でBIが始まった頃の最先端技術はメカトロニクスでしたが今はAIに代わっています。このように産業は短期間で変遷していきますが、現在、経産省イノベーション・環境局が令和6年度補正予算で「地域大学のインキュベーション・産学融合拠点の整備」の利用者を募るなどBIは大学にまで浸透しています。

JBIAは、元通産省の時限的なBI推進事業、日本新事業支援機関協議会(JANBO)の活動を引き継いで2008年に発足しました。そしてBI普及と推進人材育成のためインキュベーション・マネジャー(IM)養成研修を続けており、研修過程の実習機関としてSICの協力も得ています。(かわらばん地域版94号 2025年1月全国に広がるインキュベーション活動)

変化の激しい現代にあって、BI概念が脈々と40年を超えて生き続けるにはそこに何か

普遍性があるのではないかと気付かされました。そこで思い当たったのがBI事業に参画した当初から最も印象に残っている”did whatever was necessary to help them grow”(彼らの成長を助けるために必要なことは何でもした)という、BIの起源Batavia Industrial CenterでIMの父と呼ばれるヨセフマンキューソの語録です。

短い文章ではありますが、そこには目的に向かい能動的に行動するspiritが感じられ、事務的な相談対応との間に大きな違いを感じました。現役時代にこの姿勢を参考に若い起業家と接してみたら、彼はグングン成長し会社は後に株式公開を果たすまで成長していました。米国の起業家育成ではEntrepreneurshipの獲得が中心となるので、それに対応するIMにもspiritが求められるのではないかと。この考え方を軸にIM養成研修を始めたところ25年も続いており80回、1500人が受講しています。受講層は当初の各県に在る公的大型BI施設の職員から、商工会議所、商工会、信用保証協会、地方銀行、民間シェアオフィス等へ多様化し広がりを見せています。

産業支援策はマスを念頭に制度設計されますが、IMはそれらを起業家毎の個別事情に合わせ、しかもタイミング良くニーズに適合させる変換器の役割と解釈すると、多様化した支援機関の現場実務者に共感を呼び、演繹的な産業政策を実態に適合させる術と

して評価され普遍性に繋がっているのかもしれない。

経済原則で成り立っている先進国は、変遷する産業に対し不断の挑戦が欠かせません。それが困難なことは今更言うまでもありませんが、未来に成功確約のない起業家を支えるBI事業もまた起業家活動です。何もしなければ衰退するだけの経済社会の中で、短期成果が見込めぬ困難なBI事業を、驚異的に発展させたSIC活動もBIの普遍性を検証している様に感じられます。



一般社団法人JBIA 会長
星野 敏氏

大手鉄鋼メーカーでの新事業開発の経験が縁で、株式会社ケイエスピーでビジネス・インキュベーションの立ち上げに参加。帰社後、社内ベンチャーに挑戦した。その後再びKSPIに転籍し、わが国最初のIMとしてベンチャー支援の第一線に従事。2000年より日本新事業支援機関協議会(JANBO)に勤務。JANBO事業終了に伴い、2009年にJANBO活動の一部を引き継ぐ一般社団法人JBIAを設立し、同法人の会長に就任した。現在もIM養成研修を主宰し、全国に渡ってIMの輩出や育成、IM間のネットワーク形成のため、精力的に活動している。

著書：「最新ビジネス・インキュベーション世界に広がった地域振興の智慧」同友館・2006年、「よくわかるビジネス・インキュベーション」同友館・2001年他

みゆき鮓

JR相武台下駅前にある創業51年のみゆき鮓。2021年に店舗を洋風にリニューアル、落ち着いたハワイアン音楽を聴きながら豊洲市場や早川漁港から仕入れた活きの良い魚を使った鮓のコースと店主夫婦の創作料理が楽しめます。

鮓のコース料理は、予算とお好みに合わせてアレンジができ、慶事や法事をはじめ家族や友人のお祝い会まで幅広く利用されています。刺身、天ぷら、茶わん蒸しなど美味しさを追い求める料理と先代から引き継ぐ「みゆき鮓」の美味い鮓に心を満たされます。

「子どもたちも楽しめる料理をつくりたい」と店主家族で創った人気の料理には、美味しさの中に温かさ、優しさ、そして家族愛が詰まっています。(稲垣)



活きの良い魚が楽しめる鮓のコース



鮓店の大海老のエビマヨ



人気のバターチキンカレー



みゆき鮓の皆さん

【住所】相模原市南区新戸1741-31(駐車場あり)
【TEL】046-253-0340
【営業時間】平 日 17:00-22:00
土・日 11:00-22:00
【定休日】不定休(完全予約制)

ものづくり系創業に応じる 「スモールドライラボ」を設けました!

SIC-1 Startup Lab. に分析や軽微な組み立て作業など、ドライな研究開発ができる少人数向けの部屋ができました!

帯電防止・耐薬品性のフロアタイルを採用し、電源は最大40Aまで使用可能でリーラーコンセントも設置しています。

仕様比較

| 部屋名 | スモールドライラボ | スモールオフィス B |
|-------------|---|---|
| 床面積 | 17.6 m ² (奥行 5.5m × 幅 3.15m × 高さ 2.4m) | |
| 対床荷重 | 300 kg / m ² | |
| 床仕上げ | フロアタイル (帯電防止・耐薬品性) | タイルカーペット |
| 電灯・コンセント | 40A (リーラーコンセント付) | 40A |
| 賃料 (税・共益費込) | 70,620 円 | |
| 内観 |  |  |

床がタイルカーペットのオフィスタ입にも空室がございます。
創業間もない企業および個人、新分野進出による事業化を目指す中小企業の方は、SIC をぜひご検討ください。*

*SIC-1 へのご入居は条件および審査がございます。また入居期間は 3 年間 (2 回に限り 2 年間の再契約可) になります。詳細は弊社 HP またはお電話にてお問い合わせください。



SIC-1 詳細

詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和7年3月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

3月19日(水)

DX先進企業視察研修

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和7年3月17日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

| 部屋 | 空室数 | 賃料/月額 (共益費込・消費税込) |
|--|-----------------|----------------------|
| SIC-1 Startup Lab. ○スモールオフィスA (23.6m ²) | 1 ^{*1} | 86,570円 |
| ○スモールオフィスB (17.3m ²) | 2 | 70,620円 |
| NEW ○スモールドライラボ (17.3m ²) | 1 | 70,620円 |

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

*1 5月以降入居可能 1部屋

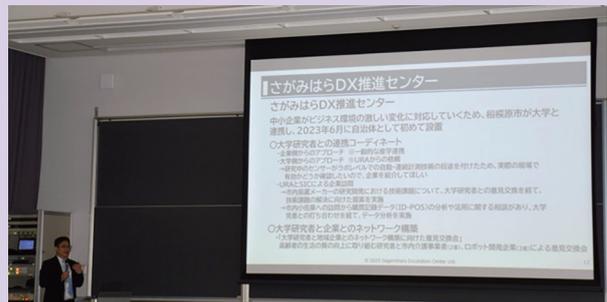


大田区のスタートアップ、 支援担当者と情報交換・ 交流会を実施



2月28日(金)SICにスタートアップ2社(大田区のインキュベーション施設「六郷ベース」の入居企業)と、支援担当者、大田区職員のご一団が来訪されました。お迎えしたのはSIC入居企業3社と相模原市職員およびSICのインキュベーションマネージャーで、各企業のショートピッチや地域ごとに産業施策の紹介を行い、それぞれの交流も深まりました。企業・行政・支援担当者がそれぞれに集まるという、地域ごとの一体感が生まれた貴重な機会となりました。

青山学院大学の産学連携イベント にて事例発表をしました!



2月20日(木)開催の青山学院大学の産学連携イベント「Meet up in AGU 2024 @SAGAMIHARA」にて、イノベーション推進課長 金澤が事例発表を行いました。

同大学の研究など連携シーズを紹介するイベントで、「第三セクターのインキュベーション機関による産学連携コーディネートについて」と題して、相模原市のDX関連事業における企業と大学との連携をコーディネートした事例を発表しました。

編集後記

尾崎社長は噛み合いの音や製品の触り心地など、経験を積む中で五感を使う重要性に気づき、なぜそうなるのかと掘り下げるのが、趣味である釣りの工夫に通じると感じるそうです。今月から溪流釣りが解禁になるなど、アウトドア向けの季節になります。皆さんは五感を活かす趣味がありますか?私は下山後の桜餅が待ち遠しいです。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>